

伊勢湾

大淀

中でも④番が、今回の謎に大きく関係しています。

古代の船は、現在の船と違い護岸に着岸することはできません。現代の港では、大きな船が港内深く進められる水深が求められますが、古代の場合は浜に上陸していました。浜に上陸する場合、大きな波が打ち寄せる外洋に面した場所よりも、入り江状の波が静かな場所の方が都合でした。

このような条件で見た時、大淀は大きな砂堆が形成され、伊勢湾と台地の間に袋状になった静かな入り江が存在した可能性があります、まさに倭姫命が大いに喜ぶ「良港」だったのではないのでしょうか。こうした地形によって、大淀という地名が生まれるとともに、古くから良港によって地域が繁栄してきたといえます。

国土地理院提供の5mメッシュ数字標高モデルを基に作成

航空写真では読み取れない微高地を色別に表示すると、さらに多くの砂堆の痕跡が確認できます。現地を歩いてみると、数mほどの地形の高まりがよくわかります。

＜古写真から見る大淀のかつての海岸線＞



大淀全景 (昭和40年代後半～50年代前半) 大淀小学校所蔵



大淀漁港 (昭和8年頃)  
大西源一氏撮影



大淀漁港と竜宮島・弁天島 (昭和10年代か)  
『史蹟名勝天然記念物調査書』より



二代目葉平松 (昭和13年8月17日)  
服部哲太郎氏撮影  
『三重縣知事指定史蹟名勝天然記念物』より

この資料は、企画展「明和町の海と遺跡」(平成29年7月22日～8月30日)に合わせて作成したものです。

発行 明和町齋宮跡・文化観光課(三重県多気郡明和町大字馬之上945番地) 印刷

電話:0596-52-7126/FAX:0596-52-7133/E-mail:saikuuato@town.mie-walga.jp

明和町には史跡齋宮跡などたくさんの方の遺跡があります。しかし、皆さんがご存知の遺跡は町の南部に限られ、大淀地区など海岸部にも遺跡があることはあまり知られていません。今回は、「海と遺跡」をテーマに海岸部の遺跡をご紹介します。

大淀、地名の由来は地形にあり!?

明和町内には、齋王や倭姫命やまとひめのみことに関わる伝承地が点在し、一部は日本遺産「祈る皇女齋王のみやこ齋宮」の構成文化財に認定されており、関係性の深さを物語っています。特に大淀地区は天照大神の鎮座の地を求め諸国を旅した倭姫命が上陸された場所と伝わるとともに、齋王が伊勢神宮で行われる神嘗祭かみかひまつりに赴く前に禊みそぎを行った地です。倭姫命に関わる神話をまとめた『倭姫命世紀』によると、大淀に関して次のように記述されています。

「…風浪無くして、海の塩大与度<sup>しほのおほよと</sup>と度美<sup>よみ</sup>で、御船をして幸行せしむ。その時倭姫命悦び給ひて、その浜に大与度社を定め給ひき…」

この神話が「大淀」という地名の由来になっています。

さて、どうして倭姫命は大いに淀んだ海に喜んだのでしょうか。また、どうして淀んでいたのでしょうか。その謎を解くヒントが、実は地形に隠されています。



左上:伝・佐々夫江行宮跡、右上:伝・カケチカラ飛祥の地

左下:葉平松、右下:伝・齋王尾野湊御視場跡



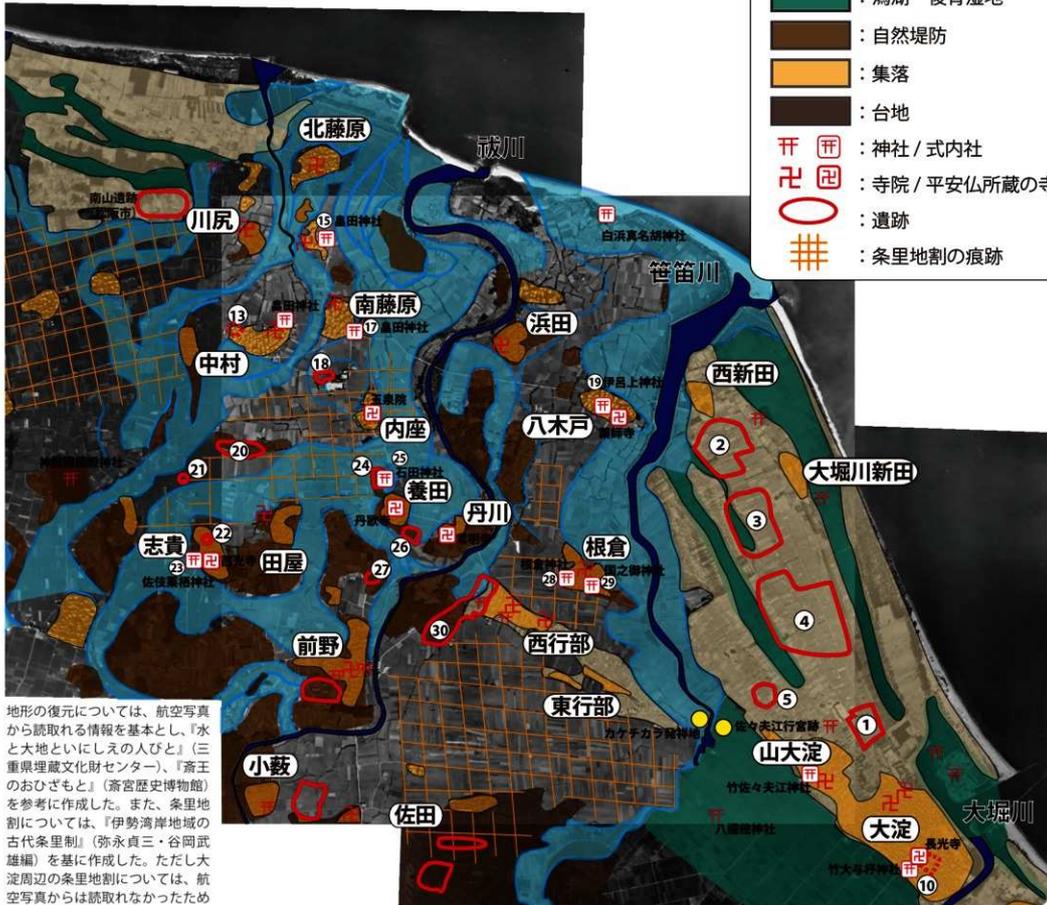
倭姫命、大淀への上陸 (イメージ)



昭和 23 年に撮影された古い航空写真をもとに、明和町の海岸部の地形を推定してみましょう。地図からはいくつかの事実がわかってきます。

- ①大淀・行部・川尻に砂堆と呼ばれるかつての海岸の痕跡が複数確認できる。
- ②下御糸地区周辺には、現在の祓川に関わる昔の川の流れがいくつも見られ、何度も川の流れが大きく変わっている。
- ③現在の集落や遺跡は、砂堆や自然堤防の上にあり、比較的自然災害に強い場所に立地している。
- ④大淀に形成された砂堆の奥の部分には広大な後背湿地もしくは潟湖が存在した可能性がある。

	遺跡名称	地区	種類	時代	備考
大淀	1 有賀町野遺跡	大淀	散布地	鎌倉・室町	
	2 中山A遺跡	大淀 山大淀	散布地	古墳以降	
	3 中山B遺跡	大淀 山大淀	散布地	古墳以降	
	4 中山C遺跡	大淀 山大淀	散布地	古墳以降	
	5 新畑遺跡	山大淀	散布地	鎌倉以降	
	6 早登遺跡	大淀	散布地	奈良 鎌倉以降	
	7 赤坂遺跡	大淀	散布地	鎌倉以降	
	8 神田遺跡	大淀	散布地	鎌倉以降	
	9 血起遺跡	山大淀	散布地	奈良以降	
	10 大淀城址	大淀	城跡址	室町	
11 松寿庵跡	大堀川新田	寺跡跡	江戸～明治	位置不明	
12 大日寺跡	山大淀	寺跡跡	～安土桃山	位置不明	
下御糸	13 下御糸中村城址	中村	城跡址	室町	
	14 興王寺跡	川尻	寺院跡	鎌倉～室町	位置不明
	15 畠田神社跡	北藤原	神社跡	～明治	
	16 神生寺跡	北藤原	寺院跡	室町～明治	位置不明
	17 畠田神社跡	南藤原	神社跡	～明治	
	18 石原遺跡	内座	散布地	奈良以降	
	19 伊呂上神社跡	八木戸	神社跡	～明治	
	20 長波賀遺跡	中村	散布地	奈良以降	
	21 北浦古墳	志貴	古墳	古墳	
	22 瀧邊宅址	志貴	城跡址	室町	
23 佐佐木権持神社跡	志貴	神社跡	～明治		
24 里浦遺跡	鎌川	散布地	奈良以降		
25 石田神社跡	鎌川	神社跡	～明治		
26 鎌川里中遺跡	鎌川	散布地	奈良以降		
27 北里遺跡	鎌川	散布地	奈良以降		
28 根倉神社跡	根倉	神社跡	～明治		
29 国之神社跡	根倉	神社跡	～明治		
上御糸	30 西浦遺跡	行部 前野	散布地 古墳	縄文以降	



地形の復元については、航空写真から読取れる情報を基本とし、『水と大地といにしえの人びと』（三重県埋蔵文化財センター）、『高王のおひざもと』（斎宮歴史博物館）を参考に作成した。また、条里地割については、『伊勢湾岸地域の古代条里制』（弥永貞三・谷岡武雄編）を基に作成した。ただし大淀周辺の条里地割については、航空写真からは読取れなかったため図面には記載していない。

**<凡例>**

- : 現在の河川
- : 旧河川
- : 砂堆
- : 潟湖・後背湿地
- : 自然堤防
- : 集落
- : 台地
- : 神社 / 式内社
- : 寺院 / 平安仏所蔵の寺院
- : 遺跡
- : 条里地割の痕跡